



(左) 佐敷小学校のチャリティーバザーにて、1円でも多く集めようと、一生懸命お客さんに声を掛ける (右) カンボジアの子どもたちと折り紙で交流

知らなかったことが
恥ずかしい



熊本県八代市と鹿児島県薩摩川内市を結び、オレンジのマークが印象的な肥薩おれんじ鉄道—八代駅から電車に乗ると、目の前に広大な不知火海が飛び込んできた。行き先は熊本県葦北郡芦北町。人口約2万人のこの小さな町は、老若男女、誰もが気軽に参加できる、町ぐるみの国際協力、で有名だ。

1996年から芦北町国際交流協会が中心となって実施している「カンボジア学校建設支援」もその一つ。「カンボジアの子どもたちのために募金活動がしたい」。授業で学校に行けない子どもがたくさんいることを知った、芦北町立佐敷小学校の児童の言葉がきっかけだった。それから14年、芦北町はNPO法人JHP・学校をつくる会を通じて学校建設の支援を続けている。

募金活動の主な担い手は、芦北町の子どもたちだ。佐敷小学校は毎年

カンボジアの子どもたちに 夢と学びの場を

熊本県南部に位置する葦北郡芦北町は、町の方針の一つに「国際交流・国際貢献」を掲げている。その代表的な事業がカンボジアの学校建設支援。これをリードしているのは、芦北町の小学生たちだ。

芦北ひまわり第4学校の子どもたちと芦北町の訪問団



さんでお菓子を買った時、おつりももらった募金箱に入れる。それが日常の光景となっている。

彼らの笑顔に出会うために

2009年12月、芦北町が建設を支援した4校目の学校「芦北ひまわり第4学校」が首都プノンペン郊外のスイサカウ村に完成。贈呈式に出席するため、竹崎一成町長率いる30人がカンボジアに飛んだ。もちろん、学校建設に大きく貢献した町内の中高生も15人参加。岩本さんをはじめ、青年海外協力隊（ポリビア・村落開発）に現職参加した芦北町役場企画財政課の上野友晴さんなどが、引率メンバーとしてサポートした。

「カンボジアの現状を自分の目で確かめたかった」という佐敷小学校6年の永里優香子さん。「贈呈式では、本当にたくさんの人が迎えてくれてびっくりしました。ありがとうという言葉、子どもたちのきらきらした笑顔を見て、私たちがしていることが少しは役に立っているのかなと思いました」。

一方で、「話には聞いていたけど、靴を履いていない子がたくさんいて驚いた」と言うのは一村満輝くん（大野小学校6年）。「でも、人に頼らないで何でも自分でやっていて。刺激を受けました」。数日間の滞在だった

が、彼らなりに多くのことを学んだようだ。上野さんも「子どもたちは本当にたくましい。私たち大人よりもすぐに現地になじんで、たくさんのかを感じ取ったようです」と目を細める。

芦北町の国際協力について、「単にカンボジアに学校を建てる」ということだけではない。異国に思いをはせることは、芦北の子どもたちの心も豊かにします」と竹崎町長はその意義を語る。「私たちの取り組みは、

町の「伝統」になりつつあります。15年目を前に、今が一つの節目。この伝統をどう守り、発展させていくか。新たな方向性を考える時期にきています」。

海を越えて共に助け合い、刺激し合いながら、成長していく両国の子どもたち。世界中どこにいても関係ない、純粹に「人」を思いやる心——芦北町の小学生から、忘れかけていた大切なことを学んだような気がした。



(上)「カンボジア募金米」の田植えをする大野小学校の児童たち。田植えから収穫まで、全校児童が参加して行われる
(左下) スイサカウ村に建設された芦北ひまわり第4学校。「ひまわり」という言葉は、町民から公募して決定したもの。ひまわりのように明るい学校になってほしいという願いが込められている
(右下) カンボジアの子どもたちに空手の形を教える竹崎町長

1月、チャリティーバザーを開催。児童が学年ごとにお店を開いて日用品などを販売し、その収益が支援に回される仕組みだ。また、芦北町立大野小学校は転作田を活用したコメづくりに挑戦。「カンボジア募金米」と称して、毎年11月に芦北町国際交流協会主催のイベントで販売している。

「水の管理をしたり雑草を抜いたり、たくさん作業があるので大変です。でも、カンボジアのために何かしたいと思って」（5年生遠原綾子さん）。今年からは冬の時期も活用し、新たにサラダたまねぎの栽培を開始した。「農作業はお手伝いで慣れているから大丈夫！」とみんなる気満々だ。

芦北の子どもたちは毎年数回、芦北町国際交流協会の岩本賢二さんから、カンボジアについて授業を受ける。カンボジア渡航歴10回、当初から支援にかかわってきた岩本さんから聞く悲しいストーリーの数々。「学校に行けないだけじゃなくて、食べ物や水も十分じゃないなんて。今まで知らずに生きてきた自分が、恥ずかしいと思いました」と佐敷小学校6年の丸山真由子さんは話す。

今では、町中の至る所に「カンボジア学校建設支援」と書かれた募金箱が置かれている芦北町。家族でレストランで食事をした時、駄菓子屋